

# 農文協 の全集

## いつの世も変わらぬ大切なものを活写 写真ものがたり 昭和の暮らし

全10巻・既刊9巻 須藤功著、A B判、上製、各240頁、各5,250円、揃52,500円  
【既刊】①農村②山村③漁村と島④都市と町⑤川と湖沼⑥子どもたち⑦人生儀  
礼⑧年中行事⑨技と知恵【続刊】⑩くつろぎ（2007年7月予定）



すげ笠の早乙女（秋田県湯沢市、昭和30年代。①農村）



第1期・全5巻

「豊かさ」が見捨ててきたもの  
今、終戦後に生まれ高度経済成長に邁進し、情報化時代に翻弄されながら休む間もなく働いてきた団塊の世代が、ぞくぞくと定年を迎えようとしている。「小生は昭和21年生まれです。貧しいようでも、家族地域が心を通わせ、一体感のある、あの時代が本の中にあふれていて素晴らしい。あの写真の中に再び入っていききたい気持ちになった。父も母もあの中にいます。」

まっとうに生きて日本人の原風景  
本全集は、高度経済成長が始まる前の昭和三〇〜四〇年代に、全国各地の地方写真家が作爲なくありのままに写し撮った貴重な生活記録写真を各巻、約350枚収録している。民俗学者・宮本常一の「名も知れぬ庶民の暮らしの中に大切なものがある。それらは時代の変化とともに忘れ去られてしまふ」という言葉を道標とし、全国各地の暮らしや行事などを撮り続けた著者の民俗学写真家・須藤功は、写真の背景や生きることへの思いを、子どもたちにも読めるようルビ付きで綴っている。  
例えば、戦後の十数年間は、軍国主義の国家の重圧から解き放たれ、貧しくはあっても生きることへの、働くことへの欲求が全開し



男に扮して踊る「こっから舞」（①農村）



野辺送りの一行（③人生儀礼）

このような読者からの感想が多く寄せられているが、それは、金やモノによる豊かさや利便性を追い求めてドカドカと見捨ててきた大切なものが、一枚一枚の写真から伝わってくるからだろう。本全集は、いつの世も変わらぬ大切なものを創り、生きていく糧となる貴重な映像記録として、後世に読み継がれていくだろう。

た時代であった。また石油や電気、車や家電製品が庶民の暮らしに入り込んでおらず、家族や地域の仲間とともに、手足を使って働き、喜び合って暮らしを立てていた。このころまでは、まだ江戸時代生まれの方も生きていたし、日本人の暮らしの原風景が色濃く日常の暮らしに息づいていた最後の集大成でもある。

### 全50巻 都道府県別編集

## 農文協

東京都港区赤坂7-16-11  
TEL 03(6500)1141  
FAX 03(6500)1307  
03(6500)1307

【各道府県版】  
岩手・神奈川・長野・京都・福岡 各3500円、他各4500円  
【特別編集版】  
東京編『大江戸万華鏡』CD「大江戸四季の音巡り」付10000円、沖繩編CD「沖繩を聴こう（沖繩民謡）」付7000円、大阪編『大阪の歴史力』10000円  
【索引巻】  
近世日本の地域づくり 2000のテーマ 5000円



1口絵つき  
その魅力を、各都道府県ごと、行政、自治、産業、教育、学芸、福祉、民俗など多彩な分野、約50編の物語で描く。  
B5判、上製、平均380頁、各巻に物産一覧、カラ

### 江戸時代

## 人づくり風土記

地域の個性を活かす、  
活力溢れる生活文化と産業。  
ふるさとの原点がここに

地方が中央から独立し、侵略や自然破壊なく地域社会を充実させ、来るべき循環型社会、成熟社会のモデルとして世界的に注目される江戸時代。  
その魅力を、各都道府県ごと、行政、自治、産業、教育、学芸、福祉、民俗など多彩な分野、約50編の物語で描く。

# 農文協 の全集

## 住まい・暮らし・地域づくり— 伝統を引き継ぎ明日に生かす 百の知恵双書

第1期・全20巻・既刊13巻 B5変型判、上製、  
平均168頁●各2800円、揃価56000円



二棟造りの民家。愛知県新城市の夏目家(撮影・川島宙次)

百の知恵双書に宮本常一 執筆時とほぼ同時期に撮影の『日本人の住まい』が加されたものであることも読者にとりありがたい。野沢正光建築工房 野沢 正光

### 宮本常一『日本人の住まい』の収穫

#### 生誕百年記念出版

日本の住宅の平均寿命は約30年。先進国の中で極度に短い。スクラップ&ビルドのたび、町並みからは地域の記憶が消え、人のつながりも希薄になっていった。いま、近くの山の本で家をつくる運動や、街中の古樹を残して地域の自然な空調装置として活用するなど、「こういふ家で(まちで)暮らしたいか」を問いただす動きが起きている。そんな関心に応えるユニークな全集「百の知恵双書」に話題の新作が加わった。

野沢正光建築工房 野沢 正光

百の知恵双書に宮本常一 執筆時とほぼ同時期に撮影の『日本人の住まい』が加されたものであることも読者にとりありがたい。野沢正光建築工房 野沢 正光

のシリーズで『棚田の謎』 宮本のフィールドワークを著した田村善次郎氏の編は様々な人々に繋がった。数年、文庫本に収録されたおりに読み返すことがあった。住まいについてこれ等にももちろん触れられているが今回の出版は格別うれしい。泊まり歩きながら体験した宮本ならではの記録である。

『住宅は骨と皮とマシ』から『住宅は骨と皮とマシ』まで、その中で堅穴住居の快適性に触れているが、宮本の記述にも最近まで十間での生活が各地に見られたとの記述がある。各地の民家はそれをみる視点により様々な発見があるはずであろう。オンドルの遺構が日本にも各地にあることを知り驚いたのは宮本を継ぐ網野善彦の記述によってだった。住宅の「マシ」(熱源)で



- ある囲炉裏や炉がいかに大きい意味を持つかを思うところとながら驚きであった。興味がつながるところに考えるヒントがある。眠っていた原稿に目を当てた努力に敬意を表したい。
- 【百の知恵双書・既刊】
- 1 棚田の謎 田村善次郎・TEM研究所
- 2 住宅は骨と皮とマシからできている 野沢正光
- 3 目からウロコの日常物観察 野外活動研究会
- 4 時が刻むかたち 奥村昭雄
- 5 参加するまちづくり 伊藤雅春・大久手計画工房
- 6 洋裁の時代 小泉和子編
- 7 樹から生まれる家具 奥村昭雄
- 8 まちに森をつくって住む 甲斐徹郎・チームネット
- 9 昆虫 大きくなれない擬態者たち 大谷剛
- 10 椅子づくり百年物語 宮本茂紀
- 11 台所の二万年 山口昌伴
- 12 湖上の家、土中の家 益子義弘他

各2800円

農文協

TEL 03(6360)0000  
FAX 03(6360)1147  
東京都港区赤坂7-16-11

# 住む

sumu Quarterly Magazine

季刊 定価1200円 年間4800円  
住まいは住む人、家族の生き方の表現。身の丈に合った普段着のような家を作る/住まうための実用&文化誌。発行・泰文館、A4変型判



- No. 22 2007夏 特集 自分でつくる家。つくること、暮らすこと/住みながら作る「棚」と「庭」/賃貸の京町家を自力改修して住む/足かけ五年のハーフ・セルフビルド
- No. 21 働く台所。
- No. 20 賢い「日本の家」。

# 増刊 現代農業

季刊 定価900円 年間3600円  
定年婦農、産直・直売、グリーンツーリズム、地元学、食農教育...農の暮らしによるライフスタイル革命、地域づくりの動きを全国から報告。A5判



農的共生社会  
自治と自給で「格差」を超える  
2007年5月号 市場原理の暴力と農・食をも  
・医・教・労・住の荒廃。村と都市、  
れぞれの自治と自給で取り戻す(人  
の・人)のつながり。  
2月号 脱・格差社会  
11月号 よみがえる廃校

# 病家須知

## 現代人が失った養生の叡智 —日本初の看護書、現代語訳

びょうかすち 全3冊 原著・平野重誠、監修・小曾戸洋(北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部長)  
監訳・中村篤彦(松柏堂医院院長)、編著・看護史研究会、B5判・上製・箱入●定価29,000円(分売不可)

原本、巻一。寝つけない病人を水音で眠りに誘う気遣い。



### 人間が持つ力を最高に発揮させる 看病の技と心を現代に 『病家須知』の現代語訳を完成させて

看護史研究会代表 坂本 玄子

私は約三十年、養護教諭として子どもたちのからだと心に向き合ってきましたが、刻々と子どもが変わって行く、しかも健やかな発達ができない悪い方へ変わって行くことに危機感を抱いています。風邪を引かな

気は育つことができるかと、そういう生きる力がどんどん弱まっている。そういう気持ちで『病家須知』を読むと、現代が人間が持つていける力を最高度に発揮できるように育てていないことが、非常に反省させられるのです。

逆児を取り上げる方法(二つとぶき草(原名・回坐婆心得)より)



### これからの地域保健・地域看護 在宅介護は、江戸に学ぼう

国保名田庄診療所(福井県)所長 中村 伸一

江戸時代後期、日本独自の家庭医学書があった。同時代トップの医の実践家、平野重誠の著書『病家須知』である。

今の時代に、日本人の日本人による日本人のための(師)

「医者三分、看病七分」の「看病」(看護・介護)の心得と技術を説いている。内容は、今でいう予防・救急・周産期・子育て・終末期・心の健康・感染症など実に幅広い分野にわたる。多くの知識を持ちながらそれを鵜呑みにせず、実

家庭医学書『病家須知』は、多くの地域保健・地域看護・在宅介護の関係者に新たな発見をもたらすであろう。(全国国民健康保険診療施設協議会理事、自治医科大学地域医療学臨床講師)



包帯の巻き方

# 農文協 の全集

# 「いのち」と「からだ」と「こころ」の 総合医学

## 農文協の医と健康の全集

### いのちを養う実践の書

#### 『病家須知』

『病家須知』は庶民のための実践の書。その半分を妊娠・出産と子育てに関する記述が占めているのは象徴的なことだ。健康づくりはいのちの始まりとともに始まる。

もう一つ象徴的なのは、医療は手助けであり、本人の自然治癒力を養う(損なわない)ことが大切である。

#### 近代を超える「いのち学」を築いた安藤昌益

安藤昌益は有能な医者でもあった。その昌益は、それまでの医書が病変の治し方を論じてきたのに対し、健康ないのちのあり方から医を説く。当時の医学の定形である内科重視、産婦人科軽視とはまったく逆

としながら、看病によって自然治癒力の涵養と発揮を助ける技術を示したこと、『養生訓』にはない社会的な支え合いの視点を持っていることである。徹底した実践を通じて、人々が医療の消費者であることをやめ健康の主体者として助け合う社会を取り戻す道を示したと言えるだろう。

また、昌益の思想とは対極をなし、ある意味では日本独自に近代を準備したとも言える漢方・古方派の巨頭、吉益東洞と永富獨嘯庵の事績と、医食同源の日本

#### 現代に生きる

#### いのちの思想の水脈

近代西洋医学が主流となつてからも、医を疾病中心・治療中心の視点からではなく、生命・健康の視点から見て個人の健康と地域・社会の健康を一体のものとしてとらえる医の水脈は途切れなかった。「衛生とは生産・生活・生命を衛(まも)ること」「いのちは食なり」と説いた『丸山博著作集』や、医学史でも疾病史でもない『戦後日本病人史』を著した川上武、さら



『医心方 食養編 建殊録 東洞医学の成果 医聖 永富独嘯庵』

『増補篇』に詳しい。

『増補篇』に詳しい。

**日本的「いのち学」の系譜**

★日本漢方の精髓―未病の追究  
叢書 **日本漢方の古典**  
【全3巻】粟島行春編訳 医食同源の原典と、新感染症の流行や実証的医学の発達を背景に日本独自に成立した古方派の業績。復刻・書下し・注解・現代語訳、B5判・上製・箱入り

医心方 食養編 ●16800円  
建殊録 東洞医学の成果 ●16800円  
医聖 永富独嘯庵 ●18900円

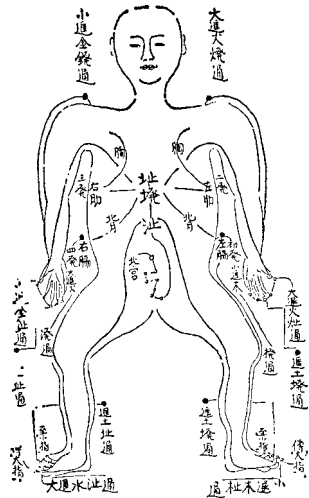
★独自の医学思想の発見  
**安藤昌益全集 増補篇**  
【全3巻】病気を治すよりも健康をつくる。近代を超える昌益医学の理論と処方全貌を示す新発見資料。全著作内容のCD-ROM付。A5判

巻一 良中子正徳編著/巻二 真齋漫筆 天・地・東均・新谷正道編著/巻三 真齋漫筆 天・地・人(上) 中村篤彦編著/巻三 真齋漫筆 天・地・人(下) 中村篤彦編著附録・昌益医学ハンドブック ●各15000円、揃45000円

★日本衛生学の泰斗の全業績  
**丸山博著作集**  
【全3巻】森永砒素ミルク中毒追跡調査や乳児死亡統計など「いのちと食」を民衆の側から問い続けた著者の全業績。

1 死児をして叫ばしめよ  
2 いま改めて衛生を問う  
3 食生活の基本を問う ●各3500円、揃10500円

安藤昌益の「人神ノ運回スル自然ノ図」



★患者の側から医療を総括  
**戦後日本病人史**  
川上武編著 被爆者、ハンセン病、公害病、臓器移植やゲノム革命など高度先端医療の進展・激動の戦後医療を患者の立場で初めて総括し、21世紀の医療と福祉を展望。 ●12000円

**農文協**  
東京都港区赤坂7-16-11  
TEL:03(6200)1141  
FAX:03(6200)1037

# 農文協の全集

## アジア文化のルーツを探访 日本とアジアの未来を考える 図説 中国文化百華

第1期・全20巻・既刊14巻 各206頁、  
A5判・上製、各3,200円、揃価64,000円



多くの日本文化のルーツである中国。国際社会で中国の存在感が大きくなる中で、私たちが中国文化をどのように受け止め、独自の文化を創ってきたかを知ることは、アジアと世界の未来を考える出発点になる。刊行中の『図説 中国文化百華』に、アジアのエコロジカル・ヒストリーを研究してきた上田信氏の「風水」をテーマにした新刊が加わった。いま、風水にどんな意義があるのだろうか。

### 日本人に必要な風水論

『風水という名の環境学』を刊行して

立教大学教授 上田 信

墓の話はもう止めよう。インテリアの話も止めておこう。暮らしやすい環境を見つめるヒントを与える風水論を、書いてみよう。本書を執筆中に、そんな気持ちの転機が訪れた。研究者の手になる概説書は、万物に活力を与える「気」が山脈を伝わって流れてくることを紹介し、墓地の適地となる地形を解説する。ところが、生者に直

「気」について、日本には「湧いて出てくる」と発想はあるものの、遠方から流れてくるという観念がない。巨大な大地と身近な住環境、その二つを貫いて流れる「気」の理論を紹介できたのではないが、本書の筆を指したとき、そんな充足感を私は秘かに覚えた。

接に関わる風水については、ほとんど言及しない。他方、実用書として書店に並ぶ風水書は、家族の運勢が家具や小物の配置と深く関連すると説く。間違っているわけではないものの、結論が導き出される過程は断折しているために、記述は断定的になりがちで、些末な話に陥りがちである。わたしが書きたいのは、そんな風水論ではない。

研究所や図書館の書庫に潜り、手当たり次第に風水書の原典を読みあさったとき、不思議な風水書と出会った。四百年ほど前に書かれた『地理独啓玄関』であった。この書は墓地風水も論じているが、平地に墓地風水の適地があったら、そこに家を建てるのは控えよ、などと記す。そのような土地には、かつて古い墓地があり、邪気が留まっている可能性が高いためである。山奥に「気」の溢れるポイントがあったら、墓地にするには適していない。周回の植生を護りなさいと、その書は述べる。溢れ出した気は人の居住地に流れ落ち、住民に繁栄をもたらすからである。

風水に則った巨大な客家の客家の集落(左は筆者)



- 1 風水のルーツを探る
- 2 風水の歴史
- 3 おん目の雫
- 4 イネが語る日本と中国
- 5 しまに生きる野生動物たち
- 6 神と人の交響楽
- 7 王朝の都
- 8 伊原弘
- 9 癒す力をさぐる
- 10 火の料理
- 11 水の料理
- 12 木村春子
- 13 「天下」を目指して
- 14 真髓は調和にあり
- 15 暮の宇宙
- 16 歴史の海を走る
- 17 君当に酔人を怨すべし
- 18 「元の染付」海を渡る

**中国関連図書ガイド**

戦後日本哲学思想概論  
下崇道編著 近代化への精神文化建設を目指す中国の国家的プロジェクト研究。ポストモダン以降まで各思潮ごとに検証。  
● 9200円

江戸・明治期の日中文化交流  
浙江大学日本文化研究所編 日本に近代化の範を求め日中の文化交流が盛んに行われた清朝末期。その意義を多角的に検証。  
● 4200円

中国博物学の世界  
小林清市著 熱帯植物誌『南方草木状』、古農書『齊民要術』などを中国の伝統的学問手法「考証学」に則って分析、検討。  
● 6800円

杜潤生中国農村改革論集  
農林中金総合研究所編 改革開放期の農業政策を策定した最高実力者の論文・講話を精選。中国社会の基底を知る歴史的証言。  
● 12000円

中国近郊農村の発展戦略  
APPA(アジア・太平洋出版連合)出版賞受賞  
今村奈良臣・張安明・小田切徳美著 河北省鹿泉市を綿密に調査。農業産業化の具体策を日中共同で提言した画期的報告。  
● 4800円

**農文協**

定期購読受付中

**人民中国** 月刊 定価4000円  
年額48000円

中国のいまを知る総合雑誌。最新の社会、経済から文学、芸能、伝統文化、自然まで幅広い内容。発行・東方書店

東京港区赤坂7-16-11  
TEL 03(5561)1141  
FAX 03(5561)1387

三杉隆敏著  
● 各2000円

# 農文協の全集

## 明日の農業に向けて、「農学の原点」に学ぶ 合理的農業の原理

アルブレヒト・テア著、相川哲夫(茨城大学名誉教授)訳、A5判、各約600~700頁  
【上巻】第1編：基礎編 第2編：経営・農法論 10月予定、予価12000円  
【中巻】第3編：土壌論 第4編：施肥論、耕作・土地改良論 12月予定、予価13000円  
【下巻】第5編：作物生産 第6編：畜産 2008年2月予定、予価11000円



テアの肖像画と「合理的農業の原理」の初版本(農水省農林水産政策研究所所蔵)



「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

### 『国富論』に匹敵する名著

本書は、経済学のアダム・スミスの『国富論』に匹敵する位置にあると評価されている。それは、農学を経済を基本理念にして生産学全体も含めて一貫した理論として体系化し、独立の科学としての地位をつくりあげた功績による。わが国でも、そうした視点から農学原論や農業史、農業経済学説史の講義では必ず取り上げられてきた。また、戦後は「輪作農法」論として研究・紹介されてきた。

### 近代農学の始祖

アルブレヒト・テア(1752~1828)は「近代農学の始祖」として、世界的に評価されている。農学者であり農業

「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

「西洋農学の原点」として  
テアの『合理的農業の原理』は近代農学以前のヨーロッパ農業・農学であり、「西洋の農書」であり、西

### 経営から生産の全ての分野を網羅

また、驚かされるのは、農業経営から土壌・肥料、土地改良、栽培、畜産のあらゆる分野が網羅されていることである。テアは医

### 農業経営者であり教育者でもあった

テアは自分で農場を経営し、教育にも力をいれた。本書は、こうした実践で試

「自然はいたるところで同じ法則で動いている。農業者は自然力を利用して動くだけである。」というテアの自然と農業への真摯な態度も含めて、本書は農業・農学の明日に向けて大きな示唆を与えてくれるはずである。

また、農業教育には、青春期の初期に農家での実習が必須と、実学と科学的な



テアが普及した六条畝立機と手押し三条播種機

# 日本農書全集

地域資源を活用した 持続的・循環型社会の原像 全72巻



農業生産を中心とした江戸期庶民の生活世界全般を記した農書。二四年もの歳月にわたり全国から三百余点を翻刻、現代語訳。「環境を汚さない当時の農法を紹介して、現代の暮らしに大きな示唆を与えた」として、朝日新聞社「第3回」明日への環境賞」受賞。

〈編集委員〉山田龍雄・飯沼二郎・守田志郎・岡光夫／佐藤常雄・徳永光俊・江藤彰彦 A5判(26・71・72巻はB5判)・上製・箱入 ●各4200円〜7500円、セット価411100円

〈代表的収録農書〉

- ⑫ 『農業全書』 宮崎安貞・貝原榮軒 ●揃105000円
- ⑭ 『広益国産考』 大蔵永常 ●52000円
- ⑯ 『百姓伝記』 著者不詳 ●揃87000円
- ⑰ 『会津農書』 佐瀬与次右衛門 ●55000円

### 収録農書一覽／分類索引

国土保全、自然農法、地域教育など「現代的課題を解くキーワード」からの農書案内と、成立地、分野別などの農書一覽。農法・農作業、衣食住、年中行事・信仰など26項目25万件の分類索引。 ●240000円

# 農文協

東京都港区赤坂7-6-11  
TEL 03(6500)1141  
FAX 03(6500)1307